

松阪市民病院

『Nazca』の導入で院内で扱う全てのモダリティを集約
『STELLAR』によって日付単位にデータをまとめて一望することが可能に



医療情報系のスタッフの皆さん

導入経緯

PACS 更新のタイミングで 統合管理システムも導入

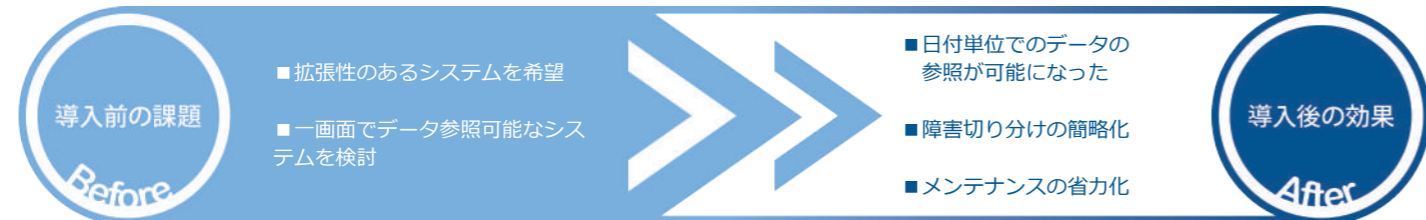
PACS の更新時期を迎え、現状の課題や今後の拡張性を模索しているとき時系列表示システムを見る機会がありました。当時は、各種データを参照する上で画面展開や画面変遷の繰り返しが当たり前だと思っていたので、時系列でデータを並べ、そこから参照画面を展開できるシステムがあることに驚きました。各社の時系列表示システムを比較しましたが、PACS との親和性と格納できるデータ種の多さから STELLAR 以外は候補から外れるに至りました。

Nazca の動作もスムーズであり、当院で扱うモダリティをすべて集約できる能力があった点が PACS 更新という点において最終的な決め手になったと思います。

同時期に更新を予定していた内視鏡システムにおいても、NazcaRIS+ARK Gate の組み合わせに置き換えることで大幅な費用削減も実現できました。

導入システム

- DICOM 画像管理システム Nazca
- RIS システム NazcaRIS
- 診療情報統合システム STELLAR
- 画像キャプチャシステム ARKGate



導入効果

各種データ参照の効率化

DICOM 画像の表示においては、従来より読み込みが格段に早くなり満足の声をいただいています。専門分野の機能要求においても柔軟に対応できる機能を持ち合わせていることから、以前は別々のベンダーのシステムに頼らざるを得なかったモダリティ画像も Nazca に統一することができました。

従来の電子カルテでは参照データ種ごとに異なる画面を持ち、「今日の検査結果のすべて」を見るためには多くの画面を行き来する必要がありました。そこを STELLAR によって日付単位にデータをまとめ上げ、STELLAR を開けばデータがある、日付単位でデータが一望できる、という新しいデータ参照の形を作ることができました。

STELLAR で入口を 1 つにできた、Nazca で複数モダリティを集約でき同時に閲覧できるようになった、この 2 点のワークフローの改善が最大の導入効果ではないでしょうか。

ユーザー目線でのメリットもさることながら、システム管理者にとってもメリットがありました。

画像の統合管理、文書の統合管理が可能ということは、メンテナンスを要する部分も統合されることになり、障害切り分けの簡略化、メンテナンスの省力化につながりました。



STELLAR 使用風景

松阪市民病院：システム導入時期 / Mar 2017



当院は、戦後の混乱期である昭和 21 年に、現松阪市福祉会館の地にあった旅館を買収改修し、内科・小児科・歯科・レントゲン科の 4 科で開業しました。当時は医療環境の整備が急務だった背景があり、旅館買収での仮開業という形で始まりました。その後、平成 6 年に現在の新病棟を増築し診療科ごとの特色を活かしながら成長を続けてきました。今日では、松阪医療圏の二次救急医療の一翼を担い、市民の皆様にご安心していただけるよう、医療の充実のために努力を続けています。

所在地：三重県松阪市殿町 1550

病床数：328 床

診療科：内科・循環器内科・リウマチ科・外科・整形外科・眼科・耳鼻咽喉科
形成外科・脳神経外科・皮膚科・泌尿器科・放射線科・麻酔科・歯科口腔外科
呼吸器内科・呼吸器外科・消化器内科・消化器外科・病理診断科・他

今後の方針

画像表示の追加要望として、タブレットを使った運用と、汎用画像（褥瘡や術前術後画像等）の取り込みを早急に行い、院内全ての画像情報一覧表示を実現したいと考えています。

今後の期待・要望

サポート対応について、過去の問い合わせ内容を保守 Web サイト等で管理・検索できるような機能追加や、新しい機能追加・バージョンアップ情報等を、保守 Web サイトやメール等で定期的に案内配信をして頂きたいと思っております。

導入時から現在の保守まで、丁寧に対応していただいておりますので、今後も引き続きお願致します。

システム構成図

